

## 何かの下に隠れる余裕もなかった

柏崎市 40代 女性

3連休で、離れて住んでいる大学生の子どもも帰ってきて、みんながちょうどうちにいたんですよ。で、午前10時すぎにちょっと遅めの朝ご飯を食べた後に、いきなり揺れだしたのです。

前の新潟県中越地震の時は、食器一つ割れなかったんですが、今回の中越沖地震では台所の食器棚などが、ガシャン、ガシャンとものすごい音をたてて倒れたし、そこら辺にあるものすべてが倒れて、「うちが壊れる」と思いました。

ふつうは何かの下に隠れるとかね、でも、今回はそういう余裕がなくて、自分は記憶にないんですけど、なぜか倒れたタンスのほうにふらふらと歩きかけたみたいです。「あのままだったら、タンスの下敷きになって死んでいたよ」と、あとで子どもに怒られました。

窓のほうを見たら、サッシがグニャグニャになっていたので、「これはもうだめだ、早く外に出よう」と言って、玄関のすぐわきにあった掃き出し窓からみんなで外に出ました。

当時、携帯電話とかは全然つながらなかったもので、うちはたまたまみんないたからよかったけれど、家族と離れている人は連絡を取り合うのに大変だっただろうと思います。



## 「いままで大丈夫だったから」は危ない

徳島市 60代 男性

ずっと昔、我々がちょうど小学校2、3年生のころに、今回と同じ川の堤防が決壊して、軒下まで水が来たんです。そのときに大きな被害を受けたので、地区の人たちの台風に対する備えや考え方は十分にできていたと思いますが、「40年以上たったから、もう心配ない」というのがどこかにあったのではないのでしょうか。

平成16年は台風が特に多かった年で、5回台風が来てもなんとかなっていたものだから、6回目の台風23号の時には、「避難しろ」と言っても、なかなか言うことを聞かなかったということなんですよ。

それで大変な被害を受けたものだから、あれから、台風がくるといえば、みんな、車とかを高ところに上げています。それがいつか、「上げたけど心配なかった」になり、「もう上げなくてもいい」というようになって、危機感がだんだん薄れていかなければいいのですが。今回の水害で、『災害は忘れたころにやってくる』ことを実感しました。



## 自主防災会にはお年寄りや子どもも参加

東松島市 70代 男性

今回はさいわい人身事故がなく、まだ救われましたが、災害が起きたときにはここに集まるとかいうものは、きちんと前もって決めておいて、それをみんなが守らなくちゃいけないと思いました。

例えば、災害時に市のほうから食料を持ってきてくれたときに、めいめいに届けてもらうわけにはいかないわけで、やっぱり、自主防災会をたちあげておいて、何か起きたときに、みんなの考えが同じで、同じ場所に寄れるようにしておく必要があるのです。

最近は自主防災会が増えていて、わたしたちのところも、今までの町内会をベースに自主防災会としての活動をはじめています。定期的にもみんなと話し合ったり、おじいさんやおばあさん、子供たちにも防災訓練に出てもらったりしています。

この間も、防災訓練のときに、4年生ぐらいの子供に消火器を実際に使わせて、「ああ、オレでもできるんだ」ってやっているわけですけど、そういうふうなこともやってみればね、何かのときに役に立つ場合もあると思います。

